

愛知県ハンガリー友好協会会報

2016年夏号

《ハンガリーフェスティバル in 愛知》

“マリンバ演奏とハンガリーのロック・シーン”

早稲田みか（大阪大学教授）



2016年6月5日（日）、午後13:30-16:30、愛知県名古屋市の名古屋国際センターホールにおいて、毎年恒例のハンガリーフェスティバルin愛知（あいちトリエンナーレ2016パートナーシップ事業、公益財団法人愛知県国際交流協会国際交流推進事業費補助金補助事業）が開催されました。

まず、愛知県ハンガリー友好協会理事・寺西むつみ氏（愛知県議会議員）の開会の辞および会長・



藤川政人氏（参議院議員）による主催者あいさつのあと、来賓（愛知県知事代理政策企画局国際課長・川原馨氏、愛知県国際交流協会主事・石川愉氏）の紹介、祝電（愛知県知事・大村秀章氏、参議院議員・酒井庸行氏、小牧市長）の披露が行われました。



第一部は「ハンガリーの調べ」と題したコンサート、マリンバ奏者の井上有子さんにより、ハンガリーの現代音楽作曲家（リゲティ・ジェルジ、サライ・カタリン、ユハース・バラージュ）の作品や、ハンガリーの代表的な作品（リストの「愛の夢」、モンティの「チャールダーシュ」）が演奏されました。

井上有子さんは岐阜県出身、桐朋学園大学卒業後、ハンガリー国立リスト音楽院に留学、世界的に知られるハンガリーの打楽器アンサンブル「アマディンダ・パーカッション・グループ」とも共演し、現在はアメリカのロサンゼルス在住の国際的に活躍しているマリンバ奏者です。マリンバという楽器自体、日頃なかなかソロで演奏を聞く機会がないなか、今回は奏者の井上有子さんが、ご自身のハンガリー留学の体験やマリンバと



の関係、ハンガリーの作曲者との交流など、ユーモアをまじえて語りながら、演奏して



くれました。ユーハースの作品を演奏するときには、楽譜を披露してくれたのですが、それは一枚の掛け軸らしきものに、記号のようなものが書かれているだけの、謎にみちたものでした。さらに、マレットと呼ばれるバチを華麗に操り、マリンバの端から端を踊るようにして優雅かつ大胆に行ったり来たりするさまは、それ



だけでもひとつのパフォーマンスのようでした。そこから紡ぎ出される音のハーモニーは、とても繊細で柔らかく、やさしく心に響き、聴衆のみなさんはみなうっとり聞き入っていました。最後のモンティのチャールダーシュは、まさに緩急自在、速度が増してくると観客の手拍手を誘い、演奏者と聴衆が一体化し、会場全体が大いに盛りあがりました。



第二部は講演会、「コンツ・ジュジャとブローディ、そしてイッレーシュ：70年代ハンガリーのロック・シーン」と題して、元東海大学文学部准教授深谷志寿さんにより、



スライドを使った講演が行われました。ハンガリーのクラシック音楽や民族舞踊は日本でもたびたび紹介されますが、ロックとなるとほとんど知られていないのが実情です。なかでも社会主義時代のハンガリーのポップスとなるとなおさらです。今回は1970



年代のハンガリーでもビートルズなどの西側の音楽が流れており、その影響を受けた歌手たちが活躍していたことが紹介されました。「ハンガリーのジョ

ーン・バエズ」と言われるコンツ・ジュジャや「ハンガリーのビートルズ」と呼ばれたイッレーシュの曲を実際に聞きながら、歌詞には当時の体制や社会に対する痛切な風刺がこめられていたことを知るのはいへん貴重な体験でした。日本でも一世を風靡したニュートンファミリー（ネオトン・ファミリーア）の曲も流れ、当時を知る年配世代のなかにはとりわけ懐かしく思われた方もいたようです。



講演のあとには、犬山市の子どもたちの表彰式が行われました。愛知県ハンガリー友好協会では2006年から毎年、ハンガリーの子どもたちと絵の交換を行っています。今年度はドゥナウイヴァーロシュのモーリッツ・ジグモンド小学校と絵の交換を行いました。



ハンガリーに送る絵を描いてくれた愛知県犬山市の子ども

たちひとりひとりに、愛知県在住のハンガリー人ゾンボリ・アーンドルさんから表彰状と記念品が贈られました。ゾンボリ・アーンドルさんは、当協会理事で、この数年、大相撲名古屋場所で優勝力士に表彰状と友好杯のヘレンド製大壺を贈呈しており、テレビ中継でその姿を目にされた方もいらっしゃるのではないかと思います。



犬山市の子どもたちの絵の展示会は、すでに3月末にドゥナウイヴァーロシュのモーリッツ・ジグモンド小学校において行われました。そのときの様子をうつした写真も展示しました。子どもたちの絵



の下には、ハンガリー刺繍サークルの作品がところ狭しと並べられました。





交流会ではハンガリーサラミとパン、ハンガリーのお菓子、ハンガリーワインなどがふるまわれました。入場者は200人を超え、今年も大成功のうちに幕を閉じました。



ご参加いただいた皆様、ご協力、お手伝いいただいた皆様、ありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

ハンガリーフェス
楽器演奏など満喫
名古屋国際センター
ハンガリーフェステ
イバルに愛知(中日
新聞社後援)が、名古
屋市中村区の名古屋国
際センターホールであ
り、親子連れらがハン
ガリー音楽などの文化
に触れた。
県ハンガリー友好協
会が二〇〇四年から毎
年開いており、今年の
テーマは「マリンバ演
奏とハンガリーのロッ
ク・シーン」。

6月8日(水)
中日新聞朝刊県内版



ハンガリーへの留学
経験を持つマリンバ奏
者の井上有子さん、岐
阜県各務原市出身、米
ロサンゼルス市在住の
「マレット」と呼ば
れる四本のばちを巧み
に操り、フランチ・リ
ストの「愛の夢」など
の楽曲を演奏。写真。
元東海大文学部准教授
の深谷志寿さんは一九
七〇年代ハンガリーの
ロック・シーンについ
て講演した。

●ハンガリーカンテムス少女合唱団 (後援事業)



日時：2016年8月2日(火) 18:30 開演 18:00 開場

場所：三井住友海上しらかわホール

指揮：デーネシュ・サボー

曲目：M. コチャール「イ調のミサ」

L. ジェンジェシ「主をほめたたえよ」

Z. コダーイ「夕べの歌」「山の歌」

L. バールドシュ「騎兵隊の踊り」「風がうたう」

J. カライ「跳ねて踊る」「夕暮れの歌声」

日本のうた：「ふるさと」「夏の思い出」など

入場料：全席自由・一般 3,500 円 小・中・高生 2,500 円

(チケットは ambt@hotmail.co.jp 協会事務局でも扱ってます)

《ハンガリーの花》

ハンガリーから届いた種でとても優しい花が咲きました。



《ハンガリーのパプリカ》

パプリカの種もハンガリー産です。苗はまだこんなに小さいのですが、6種類の種を蒔きました。甘いの中からとても辛いまであります。沢山収穫できると良いのですが・・・。

